

「立ち上がる農山漁村」選定案概要書

取組分野：【輸出】

1. 都道府県、市町村 熊本県氷川町^{ひかわちょう}
2. 事業者名 JAやつしろ竜北果樹部会梨部
3. 取組みの名称 吉野梨を、海外へ
4. 取組概要等

概要

国内経済の低迷が続く中で、贈答用に売り出していた大玉梨の売れ行きが悪く、販売単価の下落が続いていた。

新たな販売拡大を模索していた時、「日本産ブランド輸出促進事業」の話が町よりあり、海外輸出への取組が始まった。

「日本産ブランド輸出促進事業」に取り組んだ平成16年度には、台風18号で大きな被害を受けた中、ジャンボ梨「新高」760ケース(3,800kg)を台湾へ試験的に輸出した。輸出に伴い、梨部会員やJAやつしろ、町等の関係者により、宣伝販売隊を結成し、台湾の大型量販店等で販売促進活動を行った。台湾では秋の収穫を祝う「中秋節」に贈り物を贈る習慣があり、この贈答需要を狙ったことで、高価格で販売されたにも関わらず完売した。また、現地での評価も高く、手応えを得るテスト輸出となった。

翌年の平成17年度には、前年の好評を受け、12,000ケース(60t)を輸出した。平成18年度には、15,360ケース(76t)を輸出している。毎年、宣伝販売隊を送り込み、販売促進活動を行うことで、年を追うごとに、台北でも「吉野梨」が知られるようになり、徐々にブランド化しつつある。

また、この事業を通じて、梨だけではなく、八代地域の特産物である晩白柚やいちご、トマト等の品目を海外へ輸出できるよう取り組んでいる。

活動の規模

項目	H13	H14	H15	H16	H17
生産量			122.8	94.0	129.7
解説	単位：t				
出荷額			255,000	237,000	254,000
解説	単位：千円				
輸出量				3.8	60.0
解説	単位：t H16年度より輸出。				

活用している地域資源

- 氷川町特産の梨、いちご
特に、梨は熊本県で最初に植栽され、植栽から100年以上栽培され続けている歴史ある農産物である。旧吉野村地域で主に栽培されていることから、「吉野梨」として販売されている。
- 八代地域特産の晩白柚
晩白柚は、八代地域の特産品であり、ポメロ種で世界一の大きさを誇る柑橘である。香りも良く、正月用の贈答品として多く栽培されている。

地域活性化のポイント

輸出初年度（平成16年度）のテストでは、台湾の秋の収穫を祝う「中秋節」の贈答需要を狙ったことで、海外でも受け入れられた。現地での評価も高く、平成17年度には12,000ケース(60t)、平成18年度には、15,360ケース(76t)と輸出を拡大しており、生産者のやりがいにつながっている。

海外輸出以外でも、氷川町での梨の生産は4月上旬の満開期の景観の美しさ、農用地の利活用、今や氷川町を代表するイベントとなった梨マラソン大会等、自然環境の保全、水源のかん養、地域文化の継承などの多方面機能を発揮している。さらに、「道の駅りゅうほく」にある氷川町竜北物産館では青果はもちろん、梨を利用した多くの加工品が販売され、地域経済への波及効果も大きい。

事業の今後の展開方向

現在、韓国産梨が台湾へ多く輸出されている。日本産梨は品質も良く、台湾では高級品として受け入れられているが、韓国産梨の高品質化に伴い、品質差は縮まっている。他産地との品質差を付けるためにも、より一層の品質向上が求められている。また、長時間の輸送に伴い、果実のキズ、痛みが発生してくるが、この対応策も今後検討していく必要がある。

このように、輸出を始めて3年が経過したが、課題は多く残っている。この課題をクリアしながら、国内及び海外へさらなる「吉野梨」ブランドの定着を図っていく。

さらには、梨だけでなく、氷川町及び八代地域の他農産物を、海外輸出を視野に入れた販路開拓に繋げていきたいと考えている。

